

## 【社会科】

# 四つの追究で社会的事象の意味を考える授業モデル

長期研修 研修員 大澤 孝次

### 研究の内容

#### 1 社会科における思考力

##### (1) 社会科で育てる学力

社会科の目標は、社会認識の形成を通して、公民的資質の基礎を育成することである。学習指導要領では、各学年ごとに「内容」と併せて「理解に関する目標」「態度に関する目標」「能力に関する目標」が示され、統一的な育成を、児童の発達・経験に応じて、目指すものである。したがって、社会科で育てる学力は、これらの目標を達成するための「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的事象を理解する力」「観察・資料活用の技能・表現や社会的な思考・判断にかかわる力」の総体である。特に社会科の学力として中核となるのは、社会的事象の事実から関係の認識へ、関係から価値の認識へと高めていく中で、より広い視野から考える力、公正に判断する力である。

##### (2) 社会科における思考力と代表的な要素

###### ア 社会科における思考力

公民的資質の基礎となる社会的なものの見方や考え方を、児童に身に付けさせるためには、まず社会的事象を具体的に観察、調査したり、地図、統計、年表等、各種の資料を効果的に活用したりさせることが大切である。そして、次に児童が調べたことに基づいて、社会的事象の特色や意味を考えることにより、社会的事象を客観的に、しかも多面的に、とらえられるようになると思う。

そこで、社会科における思考力の定義を以下のように考えた。

具体的に観察・調査をし、各種の資料を効果的に活用を通して、社会的事象の特色や意味を多面的にとらえる力

###### イ 社会科の思考力の代表的な要素

社会的事象の特色や意味を多面的にとらえるためには、社会的事象を追究する明確な複数の視点が必要である。思考力は、社会的事象を追究する活動に伴って高まるものとする。そこで、社会的事象を

追究するための視点を、社会的事象を様々な面からとらえることでは同様である、社会科の思考力の要素と考えることとする。

社会的事象を追究する視点は、その広がり、関連、様子、特色、工夫、働き、影響、役割、重要性、在り方など、多種多様である。本研究では、これら多種多様な視点を「社会的事象の様子や特色」「社会的事象に従事する人々の工夫」「社会的事象の役割や重要性」「社会的事象のこれからの在り方」の四つに整理して、追究活動を行うことを考えた。

##### (ア) 社会的事象の様子や特色について

社会的事象について「どのような様子なのか」「どうなっているのか」「どんな特色があるのか」を追究する視点である。ここでは見学や視聴覚資料を活用して具体的に考えたり、統計や地図などの資料を読み取り客観的に考えたりする活動である。

##### (イ) 社会的事象に従事する人々の工夫について

社会的事象に従事する人々が、社会的事象を進展させ、国民生活の維持と向上のために様々な工夫をしていることを具体的に追究する視点である。ここではインタビューやビデオレターなどを活用して考え、工夫を支える人々の努力に触れ共感的に考える活動を取り入れる。

##### (ロ) 社会的事象の役割や重要性について

社会や生活の中で社会的事象が、「どんな働きを果たしているのか」「どんなことで役立っているのか」など、役割や重要性を追究する視点である。ここでは、身の回りの調べなど実生活や実社会と関連させて考える活動を取り入れる。

##### (ハ) 社会的事象のこれからの在り方について

社会的事象の役割や重要性を踏まえて、社会的事象の「これからどうあるべきか」「これからどうすべきか」を児童なりに発展的に考える。ここでは新聞やテレビのニュースなど社会的事象の問題・課題を通して考えたり、お互いの考えを交流させ高め合ったりする活動を取り入れる。

#### 2 授業モデル

##### (1) 授業モデルの基本的な考え方

思考力を高める授業モデルは、単元を通して思考

力の代表的な四つの視点を追究することが基本とする。追究する学習過程で、「社会的事象の様子や特色」「社会的事象に従事する人々の工夫」「社会的事象の役割や重要性」「社会的事象のこれからの在り方」の順序で、社会的事象を多面的に考えていく。

まず「社会的事象の様子や特色」を考え、社会的事象の概要をとらえる。次に、社会的事象の様子や特色で考えた具体的なイメージの中で、「社会的事象に従事する人々の工夫」を考える。そして、社会的事象の様子や特色と従事する人々の追究で深まった理解の中で、総合的に「社会的事象の役割や重要性」を考える。最後に、社会的事象の役割や重要性を踏まえて、発展的に「社会的事象のこれからの在り方」を児童なりに考える（図1）。段階的に追究することで社会的事象の意味を確実にとらえることができる。順序については、児童の実態や地域の実態によっては、別の順序も考えられる。このモデルは、基本的な順序として提案するものである。

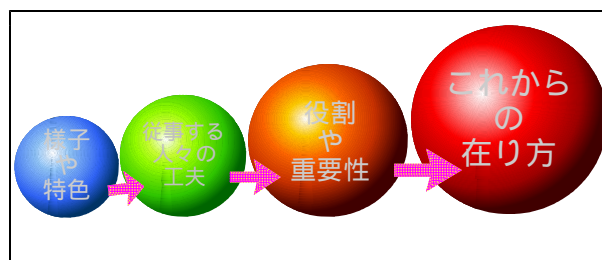


図1 社会的事象を四つの視点で順番に追究する  
注：それぞれの大きさは、追究する対象の大きさを表している。

本授業モデルのもう一つの特長は、各追究を深めるために、四つの各追究ごとに応じた指導を工夫することである（表1）。

この授業モデルを活用した授業を行うことにより、児童は社会的事象の役割や重要性が分かり、社会的事象の特色や意味を多面的にとらえることができる。

表1 社会科における単元を通じた授業モデル

学習過程	追究する代表的な視点	指導の工夫	
つかむ		社会的事象を象徴的に表す具体物や資料などを用意し、その社会的事象に対するイメージをもち、課題意識をもてるようにする。	
追 究 す る	社会的事象の様子や特色 ↓	見学や視聴覚資料を活用して、具体的に考えられるようにする。ポイントを押さえられるワークシートを用意する。個人で資料などを調べる活動を取り入れ、自分の考えをしっかりともてるようにする。資料を調べる活動では、グラフの読み取りのポイントを必要に応じて確認する。	ノートやワークシートにその視点での自分の考えを整理して書き、
	社会的事象に従事する人々の工夫 ↓	既習の社会的事象の同じ視点の追究と関連させて、	自分の考えを振り返ることができるようになる。
	社会的事象の役割や重要性 ↓	より発展的に考えられるようにする。	身の回りの調べや新聞・テレビのニュースなど、実生活や実社会と関連させて実感をもって児童なりに考えられるようにする。
	社会的事象のこれからの在り方		お互いの考えを交流し合う活動を取り入れ、自分の考えを広げ、将来への展望をもてるようにする。
まとめる		ノートやワークシートの記述を振り返り、社会的事象に関する簡単なレポートを書いたり、発表したりしてまとめることができるようにする。	

また、この授業モデルの追究の効果を高めるために、指導の工夫と組み合わせて評価の工夫を行う。授業中や単元末に社会的事象の意味をとらえる力を見取るため学習活動の評価を行う。授業中は、四つ

の追究ごとに評価項目を設定し一覧にまとめ、ノートに記述された考えや発言などの観察で評価する。単元末には、社会的事象の役割や重要性についての簡単な文章を書いたり、四つの視点ごとに設問した

テストを実施したりして評価する。この評価で、必要に応じた支援を行いながら授業モデルを活用する。

(2) 授業モデルの活用

本授業モデルは年間を通して活用することで、思考力をより高めることができる。活用の例として、三つの単元を表2に示す。単元「水産業のさかんな枕崎市」では、「水産業の様子や特色を考える」「水産業に従事する人々の工夫を考える」「水産業の役割や重要性を考える」「水産業のこれからの在り方考える」の順序で、指導の工夫をしながら追究する。次の単元「工業生産と貿易」でも、「貿易の様子や特色を考える」「貿易に従事する人々の工夫を考える」「貿易の役割や重要性を考える」「貿易のこれからの在り方考える」の順序で、指導の工夫をしながら追究する。単元「情報と社会」でも、同様である。

また、年間を通して活用する際、社会科の第5学年では、一年間を大きな一つの単元としてとらえ

指導することが、学年の学習内容の構成から考えると重要である。そこで、「工業生産と貿易」の学習では、「水産業のさかんな枕崎市」の学習の追究と関連させる。また、「情報と社会」の学習では、「水産業のさかんな枕崎市」と「工業生産と貿易」の学習の追究と関連させる。関連させることで、児童は学習の追究を一層深めることができる。

例えば、「社会的事象の役割や重要性を考える」の追究では、「水産業では、安全な魚を安い値段で食卓に提供する役割や重要性がありますが、貿易ではどんな役割や重要性がありますか」のように課題を設け、貿易の学習で水産業の学習と関連させて追究することができる。次の「情報と社会」でも、同様に関連させて追究し、児童の追究を深めることができる。

このように、授業モデルを年間を通して活用することで、社会的事象の特色や意味をとらえ、思考力を高めることができると考えた。

表2 社会科における授業モデルの活用

単元名 学習過程	水産業のさかんな枕崎市	工業生産と貿易	情報と社会
つ か む	鹿児島県枕崎市のかつお漁の仕方を学ぶことを通して、日本の水産業の学習に関心を持ち、課題をつかむ。	成田空港が世界の物流の拠点であることを通して、日本の貿易の学習に関心を持ち、課題をつかむ。	身近なテレビコマーシャルを学ぶことを通して、情報と社会の学習に関心を持ち、課題をつかむ。
追 究 す る	枕崎市のかつお一本釣り漁やかつおまきあみ漁の違いから、漁業の分類の内容や日本の主な漁港・生産額、日本の漁業の様子を考える。	日本の貿易（輸入と輸出）の様子や特色について日本の輸出・輸入品や日本の貿易相手国等の資料を調べ、具体的なデータを基に考える。	身近な情報であるコマーシャルから、メディアごとの様子や特色を調べまとめ、社会と情報の関係を考える。
	日本の水産業は、海流や大陸棚などの自然環境を生かして漁業を進めていることを水産業にかかわる人々の工夫と関連付けて考える。	日本の貿易にかかわる人々の工夫について、かかわる人々の話の資料を通して、税関の働きや現地生産などを相手の立場に立って考える。	情報にかかわる人々が、相手や目的、伝えたい内容を考えて発信する工夫をインタビューなどの資料を通して考える。
ま と め る	主な漁港の生産高や養殖・栽培漁業などから、水産業が国民生活を支える重要な産業であることを考える。	日本の工業生産には貿易の働きが重要であり、世界の国々が豊かさを交換することが大切であることを考える。	情報と産業とのかかわりについて調べ、情報を活用する意義や情報社会での個人情報を考える。
	日本の水産業が抱える問題点の改善、水産資源の確保、漁業の安全性の向上、働く人の確保、などの方策について、自分なりに考える。	貿易をよりさかんにすることを、外国との関係に貿易摩擦や安全の問題など、様々な課題があることを踏まえて考える。	情報に囲まれた生活の良い点と問題点に分かり、これからの情報活用では、情報の質を見分ける力の大切さを考える。
ま と め る	水産業に関する簡単なレポートを書くなど、単元のまとめ、評価をする。	貿易についての簡単なレポートを書くなど、単元のまとめ、評価をする。	情報についての簡単なレポートを書くなど、単元のまとめ、評価をする。

## 実践の概要

### 1 指導の計画

#### (1) 単元名と目標

ア 単元名 工業生産と貿易（東京書籍）

イ 目標

原材料の確保など工業生産を支えている貿易の働きについて理解し、これからの日本は、世界の国々と貿易を通じて助け合っていくことが大切であると考えられることができる。

貿易の働きや世界とのかかわりについて、グラフや資料を活用して調べ、自分が考えたことを話し合いの場で発表することができる。

#### (2) 単元の計画（7時間予定）

学習過程	学習活動	時間	代表的な視点	指導の工夫	評価項目 (評価方法)
つかむ	成田空港を通して貿易の学習の課題をつかむ。	1		成田空港の映像資料を用意し物流の拠点であることを知らせ、日本の貿易に関心をもち課題をつかめるようにする。 貿易に興味をもったことをノートに書かせるようにする。	
追究する	1.日本の貿易（輸入・輸出）の様子や特色について資料を活用して調べ、考える。	2	社会的事象の様子や特色	身の回りにある工業製品を観察して、具体的にイメージして考え、理解できるようにする。 自分で資料を活用して調べることで自分の考えをしっかりとめるようにする。必要に応じてポイントを確認する。 様子や特色について自分の考えを箇条書きでノートにまとめ、自分の考えを確認できるようにする。	資料から様々な貿易の様子を考え、貿易の特色についても考えている。 (観察、ノート)
	2.日本の貿易にかかわる人々（税関で働いている人、現地生産にかかわっている人）の工夫を考える。	1	社会的事象に従事する人々の工夫	前時の貿易の様子や特色で理解した具体的な場面を想起して人々の工夫を考えられるようにする。 貿易にかかわっている人（税関では働いている人、現地生産をしている会社で働いている人）の話の資料を活用し、相手の立場になって考えることも意識させるようにする。 かかわる人々の工夫について自分の考えを箇条書きでノートにまとめ、自分の考えを確認できるようにする。	貿易にかかわる人々の話の資料から、様々な工夫を考えている。 (観察、ノート)
	3.貿易の役割や重要性（足りない物が手に入る。輸出で外国が豊かになるなど）を考える。	1	社会的事象の役割や重要性	前時の貿易の様子や貿易にかかわる人々の工夫で学習した内容を基に、考えることができるようにする。 身の回りにある輸入された製品や原料からできた製品などを想起し実生活とのかかわりをもたせ、実感をもって考えられるようにする。また、輸出については、日本の製品が外国で役立っていることが分かる資料を用意する。 貿易の役割や重要性についての考えを箇条書きでノートにまとめ、自分の考えを確認できるようにする。	外国人の貿易にかかわる人々の話の資料や身の回りの生活を思い起こし、貿易の役割や重要性を実感をもって考えている。(観察、ノート)
	4.日本の貿易のこれからの在り方を貿易問題を踏まえて考える。また、その考えを意見交流する。	1	社会的事象のこれからの在り方	新聞のニュースと関連させ実社会とのかかわりをもたせ、実感をもってこれからの貿易を考えられるようにする。 グループや全体で、児童がお互いの考えを交流して、考えを広げることができるようにする。 これからの貿易について自分の考えを箇条書きでノートにまとめ、自分の考えを確認できるようにする。	貿易問題を踏まえて、これからの貿易のあり方を考え、友達と意見交流をし高めている。 (観察、ノート)
まとめる	単元のまとめ、評価をする。	1		ノートに書いた貿易に関する四つの追究ごとの考えを基に、学習のまとめをできるようにする。 四つの追究の視点ごとに設問した評価テストを実施する。	学習のまとめをしている。 (評価テスト)

## 2 実践の概要と考察

単元「工業生産と貿易」の「追究する」学習過程で、代表的な四つの視点で考えることを取り入れることとした。第2・3時は、最初に貿易の意味を考える上で基礎となる日本の貿易（輸入・輸出）の様子や特色を考えた。次に第4時で、貿易の様子や特色を理解しているので具体的な日本の貿易をイメージしながら、日本の貿易にかかわる人々の工夫を考えた。そして、第5時で貿易の様子や特色と貿易にかかわる人々の工夫の二つの追究から考えたことを基にして、貿易の役割や重要性を考えた。最後に、第6時で貿易の役割や重要性を踏まえて、貿易問題を通して、これからの貿易はどのようにあるべきかを児童なりに発展的に考えた。このように実践での学習を進めた。

### (1) 貿易の様子や特色を考える

第2時では日本の輸入の様子と特色を考えた。成田国際空港の貨物事業のビデオ(図2「スーパーエアポート成田」成田国際空港株式会社)を活用したり、輸入品の実物を見たりして、具体的な場面をイメージし



図2 成田国際空港のビデオ

て考えられるようにした。そして、児童一人一人が貿易に関する資料「教室の中の工業製品と原料の輸入先」「日本のおもな輸入相手国と輸入品」「おもな工業原料の輸入にたよるわりあい」などを個人で調べる活動を取り入れ、自分の考えをしっかりとるようにした。資料から分かった輸入の様子について、児童は図3のような内容を発表した。一人平均6.7(最低2・最高11)の様子をノートに記述することができた。社会科に意欲的に取り組むが、知識の習得に学習が偏っている児童Aは、資料から分かった日本の輸入の様子を図4のように記述した。全体で発表されていないことを資料から調べて考えて四つ記述していた。また、具体的な割合や順位などを数字で記述していた。資料から多くのことを自分で考えて、記述することができていた。ビデオと輸入品の実物を見て、貿易のイメージをもって、個人で資

料を調べ考えてノートに記述する指導の工夫で、児童は数多くの輸入の様子を考えることができたと思われる。

#### 【日本の輸入の様子について分かったこと】

- ・ 韓国からは、繊維製品、機械類の輸入が多い。
- ・ オーストラリアからは、原料や燃料の輸入が多い。
- ・ 金属原料は、北アメリカや南アメリカから輸入されている。
- ・ 電気製品は、中国からの輸入が多い。
- ・ 小麦の輸入は、アメリカから多く輸入されている。
- ・ 工業原料の輸入も多いが、食料品の輸入も増えている。
- ・ アメリカからは、食料品と化学品が輸入されている。

図3 「日本の輸入の様子について分かったこと」の児童の発表

#### 【日本の輸入の様子について分かったこと】

- ・ 原油はサウジアラビアから30.4%輸入している。
- ・ 木材の輸入国1位はカナダで25.9%輸入している。
- ・ 小麦の1位はアメリカで54.7%輸入している。
- ・ 電気機械は6兆円。そのうち25%は、中国から。
- ・ 銅鉱石は100%輸入している。
- ・ 韓国からは、繊維製品、機械を輸入している。
- ・ オーストラリアからは燃料、原料を輸入している。
- ・ 全体的に原料、食料品の輸入が増えている。

図4 児童Aのノートの記述

また、輸入の様子にあげられた「工業製品が多い」「食料品も増えている」は、輸入の特色と考えても良いという学級全体での話し合いになった。その他の輸入の様子は、「燃料や原料が多い」という輸入の特色にまとめることになった。

第3時では日本の輸出の様子と特色を考えた。資料「日本の輸出品の変化」「日本の輸出相手国の変化」から日本の輸出の様子や特色を考えた。初めに資料の基本的な見方のポイントを確認した。その後各自で資料を活用して考え、輸出の様子を図5のように発表した。一人平均7.2(最低5・最高19)の様子を、ノートに記述できた。輸入より平均数・最低数・最高数全てで増えていることは、短い時間の中で資料から確実に考えることができるようになったと思われる。それは、個人で資料を調べる活動に入る前に、全体で資料のグラフを読み取るポイントを確認した指導の工夫が有効であったと考えられ

る。グラフを読み取るポイントは、グラフの項目、単位、数量を確認することや数量の大きいもの、変化が大きい目立つものに着目することである。「1970年では、アメリカが最大の貿易相手国である」「貿易相手国では、1960年も2005年もアメリカが1番である」などの発表が該当する。

【日本の輸出の様子について分かったこと】

- ・ 1970年では、アメリカが最大の貿易相手国である。
- ・ 繊維品の輸出は、年々減ってきている。
- ・ 機械類は、1960年から2000年までは、増えているが、2005年は割合が減っている。
- ・ 貿易相手国では中国が1960年の3%から14%に増えている。
- ・ 貿易相手国では、1960年も2005年もアメリカが1番である。

図5 「日本の輸出の様子について分かったこと」の児童の発表

【日本の輸出の様子について分かったこと】

- ・ 1960年は繊維品が30%だったけど、2005年は1%。
- ・ 1960年から2005年にかけて、総額が1.5兆円だったのが、65.7兆円にまで上がった。
- ・ 1970年に相手国で中国は3%だったのに、2005年には14%になった。
- ・ 繊維製品の割合が減ってきたのは東南アジアの国々からの輸入が増えたことと関係している。
- ・ 輸送機械が13兆円で、そのうち39%がアメリカにしている。
- ・ 1970年はアメリカが一番の相手国。
- ・ 1960年から2000年まで機械類が増えているのが、2005年に少し減った。
- ・ 輸出品はアメリカや中国やアジア地域へ輸出している。

図6 児童Aのノートの記事

児童Aは図6のようにノートに記述した。全体で発表された意見は、すべて記述されていた。全体と同様に、短い時間に資料からの確かな内容を、多数考える力が高まったと思われる。資料のグラフを読み取るポイントを押さえたことが、有効であったと考えられる。

輸出の特色については、全体で発表された輸出の

様子を基に話し合い、「輸出品の1番は機械類」「相手国は、ずっとアメリカ」とまとめた。

(2) 貿易にかかわる人々の工夫を考える

「貿易にかかわる人々の工夫を考える」は、貿易にかかわる人々がどんな工夫をしているかを考えた。貿易にかかわる人として、日本一の貿易額を誇る成田国際空港にある成田税関で働く さんと最近現地生産でニュースになったビール会社の広報部の さんの話を取り上げた。その二人のインタビューを文にした資料を通して児童は考え、ノートに箇条書きに整理しながら記述し発表した。

全体では、貿易にかかわる人々の工夫については、児童が図7のように発表した。

【成田税関で働く さんの工夫】

- ・ 麻薬探知犬と一緒に安全を守っている。
- ・ 危険物が持ち込まれないようにする。
- ・ 特別な品物には、税金をかける。
- ・ 貨物の検査をする。
- ・ 安全の確保の努力をしている。

【 ビール株式会社に働いている さんの工夫】

- ・ 小さい国は、現地生産より輸出した方がよい。
- ・ 現地生産の方が輸送時間が短く、費用が安い。
- ・ イギリスは下調べの約束があり、売り上げが4倍になっている。
- ・ それぞれの国の事情に合わせる事が大切である。
- ・ その国をよく調べる。

図7 「貿易にかかわる人々の工夫について分かったこと」の児童の発表

児童Aも全体で発表された意見は、すべて記述(図8)していて、それ以外の記述が二つあった。全体、児童Aともに、貿易にかかわる二人の工夫を考えることができていた。事後調査の記述には、「ビールを造っている人たちの大変さや工夫・努力を聞いて良かったです」「いろいろな人が工夫しているのを、1時間かけたから分かった」などの意見が見られた。貿易にかかわる人々の工夫を共感的に考えることができていたと思われる。貿易にかかわる人々の工夫の追究の指導の工夫であるインタビューを文にした資料を通して考えたことが有効であったと考えられる。

【 成田税関の さんの工夫 】

- ・ 禁じられている品物や危険物が国内に持ち込まれないようにしている。
- ・ 麻薬探知犬とともに活動している安全を守っている。
- ・ 特別な品物には税金をかけている。
- ・ 荷物の検査をしている。
- ・ 安全の確保の努力をしている。

【 ビール会社の さんの工夫 】

- ・ 文化や習慣の違う国の人と一緒に仕事をするので、お互いにパートナーの心をもって仕事を進めていくことが重要。
- ・ 輸送の費用が安くなり、時間が短くてすむ。
- ・ イギリスでは、まとめてお願いする約束がある。
- ・ 味が変わらないように気を付ける。
- ・ それぞれの国の事情に合わせる。
- ・ その国をよく調べてから。

図8 児童Aのノートの記述

### (3) 貿易の役割や重要性を考える

「貿易の役割や重要性を考える」は、実生活にかかわらせて、輸入製品を思い出したり、日本が輸出した製品を実際に知っている外国人の話の聞いたりした。日本の電気製品会社の現地工場に勤めてるマレーシア人と実践校の日本語教室を担当しているブラジル人の二人を取り上げた。また、児童に身近な菓子製造・販売会社へメールで質問した内容（原料が輸入されていることなど）を紹介した。なかなか考えられない児童には、既習の社会的事象の役割や重要性を思い出させ、考えるヒントとした。具体的には「米作りでは、おいしく安全なお米を提供している」「自動車工業では、安全な自動車をつくり生活を便利にしている」などである。

学級全体では、ノートに記述できなかった児童が三人（9%）いた。この追究で考えることは、資料などから分かったことを記述する単純なものではなく、学習した内容を総合的に考えるので、既習事項や資料を通して児童が自分で考える高いレベルの思考を必要とすると思われる。児童Aは貿易の役割や重要性を図9のように記述した。生活と関連させたり、外国と協調する立場で考えたりできていた。また、真面目に着実に取り組むが深い追究まではいかない児童Bは、図10のように記述した。児童Bは、

身近な生活ではなく既習の産業の工業と関連させて考えていた。学級全体では、役割や重要性を「生活が豊かになる」と「工業も発展する」にまとめた。

【 貿易の役割や重要性 】

- ・ 生活が豊かになる。
- ・ 物が手に入る。
- ・ 助け合って生きていく。
- ・ その国にない物を、他の国と交かんして、おぎなう。

図9 児童Aのノートの記述

【 貿易の役割や重要性 】

自動車などの機械類が輸出できなくなると外国が困る。それだけでも貿易は重要である。

図10 児童Bのノートの記述

「生活が豊かになる」「物が手に入る」などは、輸入原料から製造された菓子など身の回りにある物から実生活にかかわらせて、実感をもって考えられるようにした指導の工夫が結果に結び付いたと考えられる。また、「助け合って生きていく」や「その国にない物を、他の国と交かんして、おぎなう」は、自校の日本語教室担当員の身近な話から、日本製品がブラジルで役立っていることを実感をもって考えられるようにした指導の工夫の結果と考えられる。さらに「自動車などの機械類が輸出できなくなると外国が困る」は、既習の自動車工業との関連から考えている。既習の社会的事象の同じ視点と関連させる指導の工夫が有効であったと考えられる。四つの視点ごとに設問した単元末の評価テストの結果では「貿易の役割や重要性を考える」追究に関する設問で、「日本の貿易の役割や重要性は、何ですか。」の問題には、93%の正答率で「生活が便利になり、豊かになる。また、工業も発展する。」と答えている。授業モデルのこの追究が適切であったことと指導の工夫が有効であったと考えられる。

### (4) これからの貿易のあり方を考える

四つ目の追究の「日本の貿易のこれからのあり方を考える」では、貿易にかかわる問題を通してこれからの貿易はどのようにあるべきかを児童なりに学習したことを踏まえて考えた。そのことで、貿易の役割や重要性を再認識し発展的に考えた。

貿易問題があることを最近の新聞記事（図11）から知らせ、実生活と関連させて実感をもって考えら

れるように、貿易摩擦に関連する記事と安全の問題の記事を取り上げた。また、お互いの考えを少人数のグループと全体で交流させ、考えを広げられるようにした。全体では、ほとんど(96%)の児童が自分の考えをノートに記述することができた。内容的にも、貿易の役割や重要性の学習を踏まえていて、貿易に否定的な意見は一つもなかった。この後、各自の考えを少人数グループで発表し合い、最後に全体で発表した。各グループの発表は、図12のようになった。学習したことを生かして、児童な



図11 貿易問題の新聞記事(上毛新聞から)

グループ1 輸出と輸入の量を相手国と平等にする。	グループ2 両国がバランスよく輸出入すれば、貿易まさが起きない。	グループ3 それぞれの国の事情を理解し合い、よく話し合って貿易する。
グループ4 相手の国と輸入と輸出の量を同じ位にする。	グループ5 相手国が、どのように作っているかを伝え合う。	グループ6 お互いの国が安全で心配のない品物の貿易を行う。
グループ7 相手の国の製品をよく調べて、危険な物でないと分かったから輸入する。	グループ8 売るだけではなく、他の国の物も買って、コミュニケーションをよくとり、貿易を行う。	グループ9 話し合いをしてよい物とよくない物をしっかり区別をつけて、ルールを決め、貿易をする。

図12 「これからの貿易のあり方」の各グループの発表

りに「日本のこれからの貿易のあり方」が考えられた。児童Aはこれからの貿易を「それぞれの国の事情を理解し合い、よく話し合って貿易をする。」と記述した。これは、所属するグループ3の代表意見

となり、全体で発表となった。児童Bは、「お互いの国が安全で心配のない物を輸出する。」「差が付かないように、相手国とバランスよく売買(貿易)をする。」と二つの考えを記述し、一つ目の意見が所属グループ6の代表意見となり、全体で発表となった。

二人とも、貿易の役割や重要性を踏まえて、発展的に考えられていたと思われる。事後調査でも、「最後に『これからのあり方』をやったのは、とても良かったと思う」「これからの貿易はどうすればいいかがよく分かった」など意見があり、この追究をしたことが適切であったと思われる。また、「貿易のこれからを考える」では、新聞のニュースと関連させ実社会とのかかわりをもたせ、実感をもって考えられるようにしたために、ほとんど(96%)の児童が貿易摩擦や安全の問題に着目して「これからの貿易の在り方」をノートに記述することができた。指導の工夫として、有効であったと考えられる。

#### (5) 評価と考察

児童の事後調査で「ゆっくりと一つ一つやっていたから、それぞれのことがちゃんと分かった」「1日1日じっくりやって、次の日また次のことをやっていたから良かった」などの意見が見られ、9割以上の児童が「貿易について四つの追究をしたことが良かった」と答えていた。貿易を追究する視点を明確にしたことで、児童は取り組むことがはっきりとして確実に追究することができたと考えられる。

また、児童Aは、「製品を輸出することについてどう思うか」の問いに、事前には「輸出することとはたくさん製品を作っている」と答えているが、事後は「輸出することはいいことだと思う。日本にお金が入るからいいことだと思う。その代わりに買ってくれた国の物を買わないと、貿易まさが起きるから、お互いに協力した方がいい。」と答えている。事前は輸出について製品を生産して輸出することしか考えていなかったが、事後は輸出することに対して肯定的な判断をしている。そして、輸出を経済活動としてとらえ、相手国の存在をしっかりと認識していて、貿易摩擦にならないようにすることまで考えることができています。肯定的な判断は「貿易の役割や重要性」から、経済的活動としてのとらえは「貿易の様子や特色」から、相手国の存在の認識と貿易摩擦に対する対策は「これからの貿易の在り方」から考えている。貿易について四つの追究で順番に指導の工夫をする授業モデルを活用した実践で、貿易という社会的事象の特色や意味を多面的にとらえる



ことができるようになったと考えられる。

児童の事後調査で、「授業を始める前と後で何か変わりましたか」の問いに、全員が「変わった」と答えている。「何が変わったか」の問い(複数回答)には、「ノートに自分の考えを書けるようになった」(67%)、「進んで考えられるようになった」(38%)、「いろいろなことを考えられるようになった」(38%)、「友達の良い意見を聞いて、もう一度自分で考えられるようになった」(25%)、「自分で考えたことを発表できるようになった」(25%)の順に答えが多かった。貿易について四つの追究で順番に、それぞれ指導を工夫することで、貿易の意味を考えられるようになったことを児童自身が感じ前向きに貿易について考えられるようになったと思われる。児童の取組の意欲は、貿易の意味を考える授業モデルの活用において重要であると考えられる。

まとめ

1 成果

社会的事象を四つの視点で順番に追究することと四つの追究それぞれに応じた指導を工夫する授

業モデルは有効であり、社会的事象の特色や意味を多面的にとらえる力(社会科の思考力)を高めることができた。

授業モデルを活用した実践を行うことで、児童が社会的事象の意味を考える学び方を学習し、別の実践においても、活用したことを生かすことができる。

2 課題

授業モデルである社会的事象を四つの視点で追究する際、一つ一つの追究を関連させて学習を進めないと、児童によっては十分に社会的事象の特色や意味をとらえることができない。四つの追究を児童に意識させ、それぞれの追究したことを関連させる場をしっかりと設けるなどの工夫が必要である。

授業モデルを活用して一つの単元で高めた思考力を、次の単元でさらに高めていくことが今後必要となる。その解決には、図13に示すように年間を通した授業モデルの活用が、有効であると思われる。

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	
単元 丸数字は、時数。	わたしたちの生活と食料生産 ⑳				わたしたちの生活と工業生産 ㉔		
	米作りのなな野 りか庄内平原	水産業のなな野 さか枕崎市	これ食から産と 料わらたち	自動車をつくる工業	工業生産地域	工業生産と貿易	
各	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
追	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
究	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
で	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
考	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
え	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
る	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
内	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	
容	社・会・特・色・各・子・様・の・保・障・考・え・を・考・え・る・よ・う・に・な・っ・た・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	・枕・約・あ・る・業・本・額・の・考・え・	

↓：単元の社会的事象の意味を四つの追究で順番に考える。 ⇨：四つの各追究ごとに既習単元の内容と関連させて考える。

図13 「四つの追究で社会的事象の意味を考える」年間一覧(小学校 第5学年)

注：年間の一部を示してあるので、11月以降については、資料編を参照。

参考文献 ・『「児童生徒学力調査研究」報告書』

群馬県総合教育センター (2007)